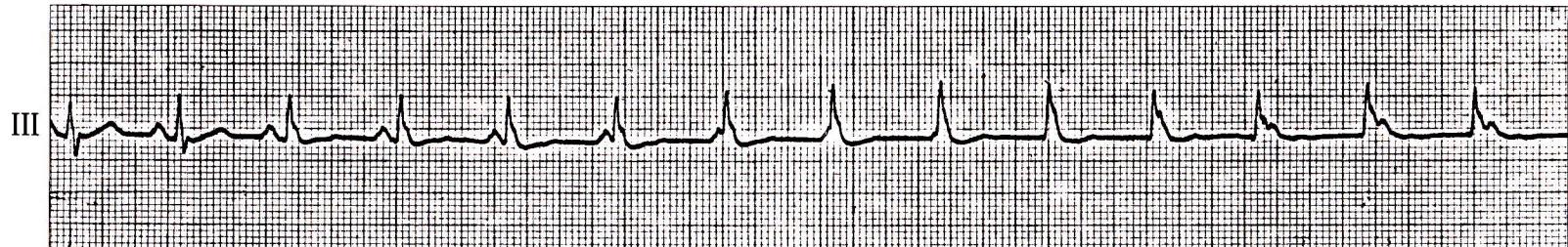


# 症例 47

●46歳 男

急性前壁梗塞のため、CCUに入院。第3病日に記録された心電図である。



- 1) このリズムは何か。
- 2) 治療はどうすればよいか。

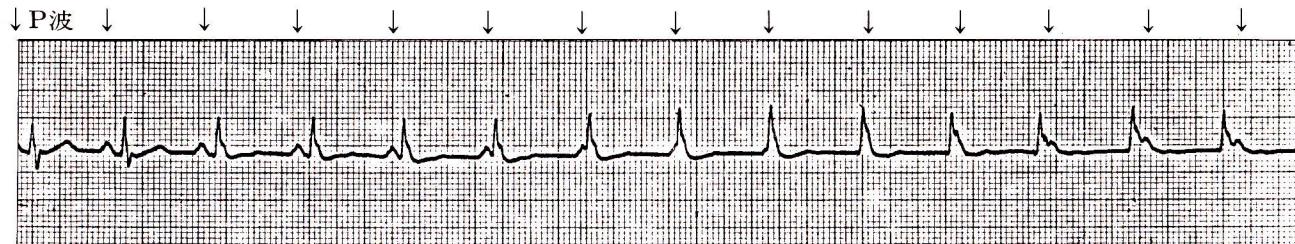
## 心電図診断

## 房室解離(Atrioventricular dissociation)

比較的心拍数の少ない心室性頻拍  
(slow ventricular tachycardia)

第1、第2心拍は先行P波を伴い、PQ時間は0.16秒であり、洞調律である。

第3拍目以下はQRS幅が広くなり、波形が変っている。第3拍目から第7拍目まではQRS波の前にP波があるが、PQ時間は徐々に短縮、第8拍目からはQRS波の中にはいり、第12拍目以下はQRS波の後にP波がでている(心室調律、房室解離)。



98

## 解 説

心室の自動能が亢進し、洞結節の刺激発生頻度を凌駕したものである。このような心拍数60/分以上、100/分以下の心室調律をslow ventricular tachycardiaといい、通常の心室性頻拍(100/分以上)に比べ予後良好である。一般に特別な治療を要しないが、このように心筋梗塞に合併した場合には厳重な心電図監視が必要である。